

## ■ 平成 30 年度事業概要 ■

### I 文学資料の収集・整理・保存及び閲覧事業

購入資料受入れ総数（図書・雑誌及び特別資料等）	752 点
寄贈資料受入れ総数（同上）	4,655 点
	5,407 点
整理・保存	収蔵資料のコンピュータ入力並びに寄贈目録の作成等
閲覧	利用者 延 4,552 人

### II 展覧会事業

#### (1) 展覧会開催事業

事業名	実施時期 (日数)	観客数 (人)	展覧会の概要
常設展 北海道の文学	通年 (306 日間)	8,715	北海道の文学を時系列に従いつつジャンル別に構成し、解説している。ビジュアルな展示スタイルに主眼を置き、直筆原稿・遺品・初版本・書簡・写真などの貴重な資料約 1,350 点を紹介。 (◎展示構成を次頁に掲載。)
特別展 〈北海道命名 150 年〉 没後 50 年 子母澤寛 無頼三代 蝦夷の夢	4/20(金) ～ 6/24(日) (57 日間)	2,620	時代小説家・子母澤寛 (1892～1968 年)。北海道厚田村 (現石狩市) 生まれ。代表作に『国定忠治』などの遊侠・股旅もの、『新選組始末記』『勝海舟』などの幕末・維新もの、含味豊かな随筆『ふところ手帖』(「座頭市物語」収録)『愛猿記』などがある。祖父・梅谷十次郎は箱館戦争敗残の武士で、その回顧談が子母澤文学の源泉となった。本展ではその全業績を紹介し、異父弟で洋画家の三岸好太郎との関わりにもふれ、また「蝦夷物語」などの作品により薄明の北の大地で格闘した人々の事跡を追想した。
特別展 戦没画学生慰霊美術館 「無言館」展 一手ばなさなかつた絵筆、 いのちの軌跡—	7/ 7(土) ～ 9/ 9(日) (54 日間)	8,993	およそ 70 年前の太平洋戦争では、動員された多くの若者たちの中に、「立派な絵描きになりたい」と情熱を燃やす画学生らの姿もあった。彼らは「あと五分、あと十分」と出征直前まで絵筆を手ばなさず、「帰ってきたらまた絵を描く」と戦地へ赴いた。長野県の上田市にある「無言館」には、戦時中、志半ばで戦地に散った画学生の絵画等が多数収蔵されている。本展では、その中から、家族や身近な情景を描きとどめた絵画とともに、手記や手紙、愛用品を紹介した。
特別展 極の誘ひ 詩人吉田一穂展 —あゝ麗はしい距離、	9/22(土) ～ 11/18(日) (50 日間)	2,170	吉田一穂 (1898～1973 年、渡島管内木古内町出身) が生誕して 120 年。「海の詩人」「孤高の象徴詩人」「日本のマラルメ」と呼ばれ多くの芸術家らに畏敬された一穂は、少年時代を過ごした積丹半島の古平町を「白鳥古丹 (カムイコタン)」と呼んで詩的インスピレーションの源泉とした。本展では、詩集『海の聖母』『未来者』『白鳥』をはじめ一穂の詩業を、その書画とともに紹介し、東西文明への深い洞察力と鋭い批評性をたたえ、今なお近代史の極北に位置づけられる吉田一穂の世界を堪能いただいた。
ファミリー文学館 大本靖の版画でたどる 北海道四季の風景	12/ 1(土) ～ 1/20(日) (39 日間)	1,944	北海道の四季の風景を印象的な構図と深みのある色調の木版画で表現し続けた大本靖 (1926～2014 年)。その絵画を通じて北国の自然の表情を鑑賞いただきながら、この地の風物や人々の暮らしを描いた文学作品を紹介した。
特別展 北海道の俳句～どこから 来て、どこへ行くのか～	2/ 2(土) ～ 3/24(日) (44 日間)	1,623	江戸期より歴史の節目節目に道外各地から俳句文化が流入し、時代ごとに根づいてきた北海道の俳句文芸。それは全国的に見てきわめて特異な歴史を持っている。しかし、北海道の歴史とともに歩んできた民衆文芸・俳句の過去の記憶が、時の流れの中にしだいに薄れつつある。今回、文学館収蔵資料にもとづき、北海道俳句が「どこから来たのか」という視点で歴史を軸に整理をし、その上で俳句文芸の現況と明日の展望「どこへ行くのか」について考えた。

## 【常設展アーカイヴ】

- 第1期展示〔4月17日(火)～6月17日(日)〕  
薯版画で描く北の情景  
北見の薯版画家・香川軍男(1915～2002年)の作品を紹介。
- 第2期展示〔7月3日(火)～9月2日(日)〕  
装丁で楽しむ北海道の文学  
北海道ゆかりの作家の本の装丁に注目し、内容との相乗による魅力を紹介。
- 第3期展示〔9月19日(水)～11月11日(日)〕  
ミステリーで旅する北海道 さっぽろ編  
ミステリー作品の中に描かれている北海道の風景を紹介。
- 第4期展示〔11月22日(木)～1月13日(日)〕  
2018年の主な受賞とトピックス  
北海道ゆかりの受賞者たちと受賞した作品を紹介。
- 第5期展示〔1月29日(火)～3月17日(日)〕  
北の手仕事あれこれII—北海道と民藝運動  
北海道における民藝運動との関わりや影響について、関連の作家や手仕事を紹介。

## (2) 常設展の展示構成

### 〈北海道の文学、その歴史〉〔神谷忠孝・平原一良〕

◆20世紀への胎動 久保栄「五稜郭血書全5幕」自筆原稿、北方謙三「林蔵の貌」自筆原稿、高倉新一郎「札幌農学校」 ◆助走期の苦闘 有島武郎・木田金次郎宛書簡、武者小路実篤「武郎さんと僕」自筆原稿、雑誌「白樺」 ◆漂泊と彷徨 国木田独歩「欺かざるの記」複製原稿、幸田露伴「二日物語 此一日」複製原稿、石川啄木「雲は天才である」複製原稿 ◆道産子作家の誕生 武林無想庵「アルバム」自筆原稿、森田たま「きもの博士」自筆原稿、中戸川吉二・久米艶子宛書簡 ◆逆流のさなかで 小林多喜二「故里の顔」複製原稿、久保栄「火山灰地」自筆原稿、本庄陸男「逆流」自筆原稿 ◆モダニズムの台頭 伊藤整「文化的青春伝」自筆原稿、中村武羅夫自筆色紙、岡田三郎「かぼちゃ談義」自筆原稿 ◆戦火の中で 辻村もと子「馬追原野」自筆原稿、石塚喜久三「花の海」自筆原稿、坂本直行自筆カット原画 ◆復興と再生 畔柳二美「こぶしの花の咲くころ」自筆原稿、風巻景次郎「札幌地理学」複製原稿、船山馨遺品 ◆成長期の精華 雑誌「北海道文学」(原田康子「挽歌」掲載)、和田芳恵「五十年ぶりの帰郷」自筆原稿、李恢成自筆色紙、三浦綾子短冊(三浦光世筆) ◆変転する現代 高橋揆一郎「『伸予』覚え書き」自筆原稿、吉村昭「赤い人」自筆原稿、渡辺淳一「リラ冷えの街」自筆原稿

### 〈北海道の詩〉〔原子修〕

◆「現代の詩」の創造に挑んだ〈風の詩人〉たち 吉田一穂「魚歌」自筆扁額、小熊秀雄画「裸婦」 ◆「現代の詩」を北の大地に根づかせた〈土の詩人〉たち 更科源蔵「河童十二ヶ月」複製原稿、和田徹三「命」自筆原稿、河邨文一郎「オホーツク」自筆原稿 ◆「現代の詩」の新しい可能性を求めて 原子修自筆色紙

### 〈北海道の短歌〉〔内田弘〕

◆北海道歌壇の動き 小田観螢、並木凡平、酒井廣治、山下秀之助、伊東音次郎 ◆北海道歌人会 その主な活動 ◆歌人達の揮毫 野原水嶺、芥子澤新之介、小田観螢、宮西頼母、川村濤人、樋口賢治 ◆北海道を詠む 石川啄木、太田水穂、若山牧水、土屋文明、与謝野寛、与謝野晶子、斎藤茂吉、佐藤佐太郎、橋本徳寿、宮柊二、太田青丘、齋藤史、清原日出夫

〈北海道の俳句〉〔木村敏男〕

◆北方俳句の夜明け 松窓乙二、河東碧梧桐、牛島勝六、高浜虚子、長谷川零餘子、臼田亜浪、石田雨圃子、青木郭公ほか ◆俳句近代化への潮流 荻原井泉水、泉天郎、長谷部虎杖子、唐笠何蝶、細谷源二、土岐鍊太郎、伊藤凍魚、水野波陣洞ほか ◆花ひらく北の俳句 齋藤玄、寺田京子、比良暮雪ほか ◆俳句の現代 鮫島交魚子、園田夢蒼花、山岸巨狼ほか

〈アイヌの口承文芸〉〔青柳文吉〕

金田一京助、知里真志保、久保寺逸彦、金成マツ、知里幸恵、萱野茂

〈北海道の川柳〉〔斎藤大雄〕

◆明治～昭和初期 鈴木青柳、北村白眼子、亀井花童子、神尾三休、三輪破魔杖、井上剣花坊、鶴彬、西嶋〇丸、田中五呂八ほか ◆昭和後期～平成7年 西村欣童、高木夢二郎、森田一二、甲野狂水、古田八白子 ◆北海道の川柳社 道央、道南、道東、道北の各結社の活動と結社誌等を紹介

〈北海道の児童文学〉〔柴村紀代〕

◆明治～昭和20年代 伊東音次郎、支部沈黙、坪松一郎ほか ◆昭和30年代 石森延男、神沢利子、安藤美紀夫、渡辺ひろし、玉川雄介ほか ◆昭和40年代以降 加藤多一、後藤竜二、長野京子ほか

〈千島・樺太の文学〉〔木原直彦〕

夏堀正元、吉村昭、李恢成、寒川光太郎ほか

### III 教育普及事業

注：「事業項目」の無印は道負担事業。※印は財団企画事業。

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	オープニングセレモニー	4/20(金)		58		「子母澤寛展」関連事業
〃	記念講演会「蝦夷地から北海道のころ」 講師：合田一道（ノンフィクション作家）	4/21(土)	60	87	145.0%	〃
〃	ギャラリートツアー 講師：当館学芸員	4/22、5/4、5/6、5/10、 5/19、5/20、5/27、 6/2、6/3、6/10、6/16、 6/24(2回)全13回		154		〃
〃	講演会「子母澤寛から阿久悠まで」 講師：吉田悦志（明治大学国際日本学部教授・博士(学術)）	4/28(土)	60	81	135.0%	〃
〃	朗読会「朗読で楽しむ子母澤寛の世界」 朗読：穴水重雄（元NHKアナウンサー）	5/4(金)	60	79	131.7%	〃
〃	講演会「女たちの幕末・明治」 講師：蜂谷涼（作家）	5/6(日)	60	80	133.3%	〃
〃	朗読会「スイーツ付き朗読とギャラリートツアー」 朗読等：五島由、鈴木栄子、穴水重雄	5/9(水)、5/16(水)	20	21	105.0%	〃
〃	講演会「子母澤寛作品の系譜と厚田三部作」 講師：丹羽秀人（函館市中央図書館館長）	5/20(日)	50	93	186.0%	〃
〃	特別映画会「新・座頭市物語」	5/27(日)	30	30	100.0%	〃
〃	歌謡ショー「ご免なすって！さゆりの演歌旅」 歌：平山さゆり（歌手）	6/2(土)	80	95	118.8%	〃
〃	話芸50年 蝦夷落語「十八番（おほこ）の十八番」 講師：笑生十八番（落語家）	6/10(日)	80	87	108.8%	〃
〃	オープニングセレモニー	7/7(土)		20		「無言館展」関連事業

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
講演会・セミナー・講話等	オープニング・ギャラリートーク 講師：当館学芸員	7/ 7(土)		32		「無言館展」関連事業
〃	オープニング記念講演会「[無言館]のこと」 講師：窪島誠一郎(無言館館主・作家)	7/ 7(土)	100	119	119.0%	〃
〃	ミニトーク 講師：当館学芸員	7/27、8/3、8/10、 8/17、8/24、8/31 全6回	80	92	115.0%	〃
〃	トークセッション「ほくらがドームになったわけ」 講師：スズキコージ(絵本作家)、アーサー・ピナード(詩人)	8/14(火)	90	93	103.3%	〃
〃	文化講演会「会えない人に、どこで出会えるか」 講師：アーサー・ピナード(詩人)	8/15(水)	90	93	103.3%	〃
〃	オープニングセレモニー	9/22(土)		20		「吉田一穂展」関連事業
〃	オープニング・ギャラリートーク 講師：高橋秀明	9/22(土)		20		〃
〃	ギャラリー・ツアー 講師：当館学芸員	9/23、10/20、11/3、 11/17、11/18 全5回		28		〃
〃	連続講座「吉田一穂を知る」 講師：平原一良、高橋秀明、山田航、三角みづ紀、野坂政司、大島龍、柴村紀代、谷暎子	10/ 5(金)、10/19(金)、 10/26(金)、11/16(金) 全4回	140	149	106.4%	〃
〃	文芸対談Ⅰ「戦争とモダニズムー吉田一穂を中心に」 講師：瀬尾育生(詩人)、矢野静明(画家)	10/ 8(月)	60	60	100.0%	〃
〃	文芸対談Ⅱ「吉田一穂をめぐって」 講師：吉増剛造(詩人)、酒井忠康(美術評論家、世田谷美術館館長)	10/21(日)	80	110	137.5%	〃
〃	詩の朗読会「一穂の遥かなる最弱音」 朗読：大島龍、加藤多一、木暮純、木田澄子ほか	11/ 4(日)	80	88	110.0%	〃
〃	よみきかせ会「はる・なつ・あき・ふゆ」 朗読：当館職員	12/2(日)、12/16(日)、 1/13(日)、1/20(日) 全4回		22		ファミリー文学館関連事業
〃	ワークショップ「ドリームキャッチャーをつくろう」 講師：当館職員	12/ 8(土)		9		〃
〃	音楽のしらべとともに「ギターのしらべ」 出演：高泉コウ(ギターリスト)	12/15(土)		68		〃
〃	ラウンジ朗読会「文学で語られた北海道の季節」 朗読：朗読を楽しむ会	1/10(木)		34		〃
〃	ワークショップ「リノカットで蔵書票をつくろう」 講師：関川敦子	1/12(土)		9		〃
〃	音楽のしらべとともに「歌声とともに」 出演：安達彩子(ヴォーカル)、日小田直美(ピアノ)	1/19(土)		92		〃
〃	オープニングセレモニー	2/ 2(土)		40		「北海道の俳句展」関連事業
〃	文芸講演会「人と俳句」 講師：辻協一(中北海道現代俳句協会顧問)	2/ 2(土)	60	69	115.0%	〃
〃	俳句展記念「大学生による公開歌会・句会」 講師：山田航(歌人)、五十嵐秀彦(中北海道現代俳句協会会長)ほか	2/24(日)	60	60	100.0%	〃
〃	講座「AIが俳句を作るまで」 講師：山下倫央(北海道大学大学院准教授)	3/ 9(土)	60	85	141.7%	〃
〃	座談会「北海道の俳句～どこへ行くのか～」	3/16(土)	60	69	115.0%	〃

事業項目	事業名	実施時期(日数)	目標観覧(参加)者数(人)	観覧(参加)者実績数(人)	観覧(参加)率(%)	備考
夏休み文学道場	「中・高生のための創作講座」	8/1(水)～8/3(金)	30	18	60.0%	
小・中・高生短歌コンテスト	小・中・高生を対象に作品を募集し、優秀作品を表彰するとともに、当館ロビーに作品展示	募集7/1(日)～9/9(日) 展示12/1(土)～1/20(日)	3,100	4,805	155.0%	
〃	小・中・高生短歌コンテスト表彰式	12/1(土)		77		
ファミリー文学館	キッズ・プログラム「ミニ工作」	12/1(土)～1/20(日)	400	157	39.3%	
わくわくこどもランド	紙芝居、読み聞かせ、工作教室などに親子で参加	15回開催	600	449	74.8%	
映画鑑賞会	「幕末太陽伝」	6/3(日)	60	72	120.0%	
映画鑑賞会	「座頭市」	6/24(日)	60	41	68.3%	
映画鑑賞会	「ビルマの豎琴」	7/15(日)	60	53	88.3%	
映画鑑賞会	「花の恋人たち」	11/18(日)	60	60	100.0%	
市町村連携事業「文学館出前講座」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	18市町村19会場	1,500	1,316	87.7%	
市町村連携事業「ミニ巡回展」	市町村、学校、文化団体等との共催で講演会等を開催	5市町村5会場	1,000	5,013	501.3%	
文字・活字文化の振興事業	「北海道文学館公開歌会・句会」 出演：〈パネリスト〉内田弘、大塚亜希、五十嵐秀彦、浪越靖政〈実作者〉短歌、俳句、川柳各2名	10/28(日)	70	51	72.9%	
古典の日記念朗読会	朗読：村井裕子(フリーアナウンサー)、手島慶子(マリンバ・パーカッション奏者)	11/2(金)	80	71	88.8%	
月例朗読会	朗読：ドラマチックリーディンググループさ・く・らほか	年10回	600	548	91.3%	
文化施設連携事業	「カルチャーナイト2018」 展示室の夜間開館等を実施	7/20(金)	320	350	109.4%	
文学資料の利用	閲覧室での研究、調査、読書等	通年(306日間)	1,500	4,552	303.5%	
文学愛好団体の活動	文学愛好団体が講堂利用(貸館)	通年(306日間)		1,225		
負担金事業計			10,900	21,204	194.5%	
※ 文学館カレッジ	俳句の世界、画像でたどる好短篇、絵本、生涯読書会、川柳講座の5講座	5～3月	500	545	109.0%	
※ 文学館カレッジ講演会	トークイベント「詩人吉増剛造の世界」 講師：吉増剛造(詩人)、高橋純(小樽商科大学名誉教授)ほか	5/15(火)	240	41	17.1%	
※ ロビーコンサート	「秋の夜の音楽会パートⅠ」 「秋の夜の音楽会パートⅡ」	11/2(金)、11/3(土)	120	91	75.8%	
※ 中島公園 ぶんがく縁日2018	同人誌・図書等のフリーマーケット、講演会、朗読会など	9/16(日)、9/17(月)	50	304	608.0%	
※ ぶらり札幌文学散歩	身近な土地と文学の関わりを解説	6/19(火)、9/4(火)、11/6(火) 全3回	30	34	113.3%	
※ 俳句記念事業	北海道文学館俳句賞作品を募集し、優秀作品を表彰 講演会「言葉で俳句をつくろう！」 講師：佐藤文香(俳人)	募集9/1(土)～11/30(金) 表彰式2/2(土) 講演会3/17(日)		456		
※ 文学館まつり	講演会、朗読会、親手手作りコーナー、秋のミニ色紙づくりなど	9/23(日)	300	293	97.7%	
※ ロビー展示	文学への関心等を促すため収蔵品資料等を展示	5/13～6/24、6/29～9/15、10/8～11/27、1/30～3/24 全4回	0	16,637		
※ 小学生向け事業	「文学館たんけんクイズ」	通年(306日間)	100	140	140.0%	
※ 文化公演の活動	コンサート、朗読会の会場に利用	閉館後の夜間	600	908	151.3%	
自主企画事業計			1,940	19,449	1002.5%	
			12,840	40,653	316.6%	



#### IV 北海道文学に関する調査研究事業

- ① 特別展「没後50年 子母澤寛 無頼三代 蝦夷の夢」展関連資料調査
- ② 特別展「戦没画学生慰霊美術館「無言館」展」関連資料調査
- ③ 特別展「極の誘ひ 詩人吉田一穂展—あゝ麗はしい距離、」関連資料調査
- ④ ファミリー文学館「大本靖の版画でたどる北海道四季の風景」展関連資料調査
- ⑤ 特別展「北海道の俳句～どこから来て、どこへ行くのか～」展関連資料調査
- ⑥ 特別展の図録作成に要する調査
- ⑦ 次年度の特別展「よみがえれ！とこしえの加清純子」展関連資料調査
- ⑧ 次年度の特別展「歌川広重 ふたつの東海道五拾三次」展関連資料調査
- ⑨ 次年度の特別展「ノンフィクション作家・保阪正康の仕事」展関連資料調査
- ⑩ 次年度のファミリー文学館関連資料調査
- ⑪ 次年度の特別展「砂澤ビッキの詩と本棚」関連資料調査

#### V 文学愛好団体等の活動に対する支援事業

次の団体の事業に対して、後援並びに共催により支援した。

- ① ロメウス弦楽四重奏団  
第5回ロメウス弦楽四重奏団コンサート  
(平成30年4月17日 北海道立文学館地階ロビー)
- ② ふるさとを歌う会 in 札幌 森の時間  
森の時間 SNOW HOKKAIDO×竹あかり  
(平成30年5月26日 北海道立文学館地階ロビー)
- ③ 中川町教育委員会  
斎藤茂吉記念第25回中川町短歌フェスティバル  
(平成30年6月1日～7月20日 中川町)
- ④ ギターグループ「セピア」  
ギターグループ「セピア」第1回演奏会  
(平成30年6月2日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑤ 新緑のバロック実行委員会  
新緑のバロック  
(平成30年6月28日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑥ ふるさとを歌う会 in 札幌 森の時間  
森の時間 SNOW HOKKAIDO×竹あかり  
(平成30年7月29日 北海道立文学館地階ロビー 中止)
- ⑦ クピンスキー・ギターデュオリサイタル実行委員会  
クピンスキー・ギターデュオリサイタル  
(平成30年8月23日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑧ ハビエル・コントララスギターリサイタル実行委員会  
ハビエル・コントララスギターリサイタル  
(平成30年9月23日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑨ 日本弦楽器製作者協会ギター部門有志  
FIESTA ギター銘器の工芸美と名曲の調べ  
(平成30年9月29日～30日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑩ 北海道高等学校文化連盟第40回全道高等学校図書研究大会  
北海道高等学校文化連盟  
(平成30年10月4日～5日 北海道立文学館講堂ほか)
- ⑪ NHK文化センター朗読教室 松井信子クラス  
北海道ゆかりの文学を読む 20周年記念朗読会その1  
(平成30年10月14日 北海道立文学館講堂)
- ⑫ 山口流梅桃桜会札幌  
山口千壽篠笛演奏会 Vol.10

- (平成 30 年 10 月 27 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑬ ロメウス弦楽四重奏団  
第 6 回ロメウス弦楽四重奏団コンサート  
(平成 30 年 11 月 9 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑭ 三浦浩  
三浦浩ギターコンサート  
(平成 30 年 11 月 17 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑮ 特定非営利活動法人絵本・児童文学研究センター  
絵本・児童文学研究センター創立 30 周年記念 第 23 回文化セミナー  
(平成 30 年 11 月 18 日 小樽市民会館)
- ⑯ 木暮浩史ギターリサイタル実行委員会  
木暮浩史ギターリサイタル  
(平成 30 年 11 月 22 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑰ 宮下祥子ギター教室  
坪川真理子ギターリサイタル  
(平成 30 年 12 月 1 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ⑱ 札幌大学熊谷ユリヤ研究室  
バイリンガル朗読とハーブ～命名 150 年の冬に  
(平成 30 年 12 月 8 日 札幌市文化芸術交流センター)
- ⑲ NHK 文化センター朗読教室 松井信子クラス  
北海道ゆかりの文学を読む 20 周年記念朗読会その 2  
(平成 30 年 12 月 9 日 道庁赤レンガ庁舎)
- ⑳ オーボエとクラシックギターの調べ実行委員会  
オーボエとクラシックギターの調べ  
(平成 31 年 3 月 2 日 北海道立文学館地階ロビー)
- ㉑ トマシ&ムッソデュオリサイタル実行委員会  
トマシ&ムッソデュオリサイタル  
(平成 31 年 3 月 21 日 北海道立文学館地階ロビー)

## VI 啓発広報事業

- ① 事業案内、各展覧会ポスター・ちらし及び講演会・セミナーちらし等を制作・発行し、道内外の文学館、道内の博物館や図書館、札幌市内の地区センター、区民センター、カルチャーセンター、主要ホテル、観光案内所等に配布した。又、地下鉄各駅構内にポスターの掲示を行った。更に、展覧会の開催を PR するため、新聞紙上で有料広告のほか TV スポット CM を行った。
- ② 「北海道文学館報」第 113 号(6 月 1 日付)、第 114 号(8 月 21 日付)、第 115 号(11 月 2 日付)、第 116 号(3 月 12 日付)を発行した。

## VII 刊行物の刊行事業

- ① 特別展「子母澤寛 無頼三代 蝦夷の夢」図録の刊行
- ② 創立 50 周年記念アンソロジー「北海道文学館から」刊行
- ③ 特別展「極の誘ひ 詩人吉田一穂—あゝ麗はしい距離、」図録の刊行
- ④ 特別展「大本靖の版画でたどる北海道四季の風景」図録の刊行
- ⑤ 特別展「北海道の俳句—どこから来て、どこへ行くのか」図録の刊行
- ⑥ 創立 50 周年記念北海道文学館俳句賞作品集「架橋」の刊行
- ⑦ 「平成 29 年度年報」の刊行

## VIII その他の付帯事業

- ① 博物館実習生の受入  
博物館実習生—15 名(受入期間 5 月～3 月。実習期間 2 週間)